

2018 年度第 1 学期 One Asia 財団国際講座

「韓国文化への漢字の影響と漢字教育の現状」

第 15 回中国文化大学 One Asia 財団国際講座「アジア共同体：東アジア研究の構と変容」、徐興慶学長は、韓国明知大学中文系姜允玉教授兼東アジア研究所所長を招き、教授は「韓国文化に対する漢字の影響と漢字教育の現状」と題し本学で講演を行いました。講演に先立ち、姜教授は本学の張鏡湖理事長と会見、種々懇談しました。

姜教授は古くから中国で発掘された儒教文学や漢字の研究に携わっており、「出土儒家文獻所見儒家思想研究」、「中國古文字學綱要」、「漢字と中国文化」などの本を出版しています。この講演では、「漢字が韓国文化に与える影響と漢字教育の現状」と題して、東アジアにおける漢字の伝播と韓国の儒教文化への影響を学び、韓国漢字教育の方針の変化と韓国の漢字教育の現状を講義しました。

以下は講義の要約です。

中国、日本、韓国の 3 カ国は古代のある時期に同じ方法で漢字を記録していたので、日本も韓国も漢字の影響を強く受けていました。漢字文化は最初に西漢漢武帝の時期に朝鮮半島に伝わりました。発掘された中に論語の竹簡がありました。中国で紙を使い始めたとき、韓国は論語を学ぶためにまだ竹簡を使用していましたが、韓国の学んだ論語はすべての論語ではなく、論語の経典の一部であり、これは日本の木簡の論語と同じです。多少の違いはありますが、中国、韓国、そして日本にはまだ大きな類似点があります。

1999 年に、釜山大学博物館は、金海鳳凰洞の「論語・公冶長」に書かれた 4 枚の木簡を発掘しましたが、これは韓国で最初に発掘された典籍木簡で、その使用の背景と新羅国の教育機関とは密接な関係があります。当時の教育は儒教の古典を中心としたもので、論語や孝経は学習者にとって必読の科目とされていました。これは古代日本の学習課目と共通しています。朝鮮半島に中国の印刷技術と科挙の制度が導入されるにつれて、漢字の記録と儒教思想が普及しました。958 年、高麗王朝は科挙を開始し、儒教の経典はその主要な試験科目になりました。

朝鮮時代には、儒教が国家の宗教となり、この時期には 2 種類の国家文献がありました。一つは官方の儒教文献で「朝鮮王朝儀軌」と「国朝五礼儀」、そして民間では、朝鮮の儒学生の中国見聞録「漂海録」です。韓国の儒教的制度社会の文学、政治、経済、制度、建築、服飾、そして食事等、の各方面の歴史は漢字で記録されていました。「朝鮮王朝儀軌」を例にとると、朝鮮王朝は儒教に基づいており、600 年以上にわたる朝鮮王室の主要な活動を図や漢字の形で記録しています（国の結婚、王の旅行、宴会など）。この本の巻は非常に多く、3,895 巻が共有されています。モンゴルによる中国の侵略の間に、儒教の文献のほとんどは破壊されました、そして、韓国はその

ような攻撃を受けました、しかし伝統的な遺産は完全な形のまま保存されました。そして何千年の間破壊されず、儒教の伝統は継承されてきています。

現時点では、韓国の路上では漢字は見られませんが、韓国にはまだ漢字の正体字が存在しており、漢字と混在して使用されています。1961年に発行された常用漢字表には1,300字があります。1972年にはまた中学生の必修漢字が規定されました。韓国の「中央日報」は、祖先の考え、感情と価値観を理解するためには、韓国人は漢字を継承して漢字教育を行わなければならないと指摘しています。「説文解字」は三カ国に大きな影響力を持っていて、日本語にある漢字は言うまでもなく、この三カ国にある文字文化によって、多くのコミュニケーションができています。

さらに、韓国では中国からもたらされた儒教文化と現地の文化の結合は、独特な儒教文化を形成しました。14世紀末、朝鮮王は祖先の寺院で毎年儀式の儀式を行いましたが、規模が大きく重要な儀式は「宗廟大祭」としても知られています。「宗廟大祭」は、儒教の儀式に則って行われる最高級の王室儀礼であり、国家が東洋の「孝」の基本理念を実践できるようにすることで、民族共同体としてのつながりと秩序を形成しています。17世紀には、日本も儒教を促進し始めました。

儒教文化の導入に伴い、儀式や音楽文化も韓国や日本などの東アジア諸国に伝達されました。初期の頃は中国の礼楽制度が続き、儀式の際は鐘などの楽器が使われてきたが、その後、国家統治階級で礼楽制度によって規則を強化し、社会の安定を維持するようになりました。

韓国はさまざまな儒教の祭事儀式を保持してきたが、いわゆる「礼楽」は結縁家父長制に基づき統治法規の社会規範と礼節儀式の基礎となりました。

中国の礼楽制度が日本に導入され、17世紀の江戸時代には韓国にも導入され、模倣と統合の結果、日本の特徴を持つ儀式音楽の形式を形成した一雅楽。

たとえば、中国と韓国の両方で祖先の寺院制度があり、祖先の寺院の建築様式や、儀式に使われる礼器はさまざまです。この違いを共存しながら共通の基盤を追求する精神も、アジア共同体にとって大きな原動力となるでしょう。漢字文化が韓国に伝達された後、韓国独自での発展を経て、部分的により改善され本土化されました。ある角度から伺えるのは、韓国の社会開発モデルは儒教の影響を受けた文化的構造ではあるものの、中国の儒教文化を全て受け入れたかと言うと、そうとも言い難い。

漢字は韓国の儒教文化の継承において誠実さを強く維持し、同時に現代社会の開発の過程において、複雑で多様な文化的特徴を形成してきました。

漢字や儒教文化は韓国民の日常生活に浸透してきており、「家族と万事共に」、「他人との関係」という概念は、常に人々の思考と行動に影響を与えています。現代の韓国では、儒教がナショナリズムとして浸透している中、集団的性格と精神的な強さとなり、国民の潜在意識に統合されてきています。倫理道徳は治世の宝とし、君臣父子の概念は自己修養の徳銘として考えられるようになったのです。

また儒家も社会生活の中において、現在韓国人の生活習慣や対人関係にも儒家思想が取り入れられるようになりました。

儒家文化の「和而不同・求同存異」という考え方は、「漢字文化共同体」を築く上で非常に重要な役割を果たしており、地域間の平和と安定を維持する上で非常に重要な意義があります。

近年、台湾・中国・韓国・日本・ベトナムの交流が頻繁になってきており、漢字、音韻、語彙に精通した専門家が集まり、優れた書物を学べるようになることが予想できます。この書物が韓国の学生の漢字の知識に、確実に積極的な役割を果たすことになるのは言うまでもありません。

東アジア諸国は東アジア共同体としての共通の理解を持っていなければならない、すべての国は自国で責任感を持ち、お互いを尊重しなければなりません。

韓国と日本もまた、漢字と儒家文化を吸収しながら融合と変化を続けています。私たちはより寛容で多様な文化を認識する必要があります。

各国が更に平和に暮らせるためには、東アジアが儒家における慈悲の考えを広め、互いに学び、互いに吸収し、そして真の共同体としての自覚を持って進んでいかなければなりません。

(執筆者：黄美恵・日本語科助教授、翻訳：武石信一)

※本講義については以下の Web サイトを参照してください。

<https://oneasia.pccu.edu.tw/facultydata.php?page=15>